

第1回 港湾施設の維持管理等に関する検討会 議事概要

日時： 平成24年10月22日（月） 13：30～15：30

場所： 中央合同庁舎2号館低層棟1階 共用会議室3B

○冒頭、黒田勝彦委員が座長に選出された。

○事務局より維持管理に関する港湾分野のこれまでの取組みと現状把握、維持・改良費用の推計方法について説明し、委員による意見交換を行った。

○各委員からは下記のような意見があった。

- ・維持・改良費用の推計については、短期間で概算値を把握する方法と、港湾施設の維持管理のあるべき姿の検討を通して詳細に把握していく方法があるが、どちらを目指すのか明確にすべき。
- ・事務局説明の改良費用の推計方法は、現況施設をそのまま機能維持して改良することを前提としたものであるが、機能向上等を含めた改良費用をどのように考慮するかも課題である。
- ・物理的な寿命のほか社会的な要請によって施設の改良が実施される場合もあるため、今後老朽度だけでなく社会的役割等を踏まえた改良費推計の検討が必要。
- ・港湾施設の現況について、水域・係留・外郭・臨港交通の主要な施設に加え他施設についても推計可能か検証するため、台帳を精査し更なるデータの収集整理が必要。
- ・同じ鋼構造物でも、厳密には矢板式岸壁と栈橋式岸壁では劣化速度も異なるため、推計の際、施設区分の考え方の整理が必要。
- ・改良工事の費用について、代表的な事例から平均値を算出して使用しているが、ばらつきが大きいため精度向上が必要。
- ・古い時期に整備した施設と比較的新しい施設では、用いている技術基準や施工方法等が異なり、劣化速度も異なる可能性がある。
- ・改良費用の推計値に突出したピークが生じており、平準化が必要。劣化予測の方法及び精度も考慮し劣化予測とセットで検討する考え方や、劣化するまでの年数のばらつき分布を考慮して、平準化の年数幅を設定して行う考え方もある。

○次回以降、いただいた御意見を踏まえ、議論を深めていくこととなった。